

超高齢社会課題研究所活動実績報告書

令和2年3月1日～令和3年2月28日

令和3年4月30日

所長 須藤 智

超高齢社会課題研究所では、高齢者を対象とした人の研究を中心に行っているため、当該報告期間はパンデミックの影響を大きく受け、実際に高齢者の方々に対する対面の調査等を縮小実施した。一方、社会のデジタル化は大きく進み、デジタル技術の新しい超高齢社会の課題が浮き彫りとなっており、それらの課題に対して地域の高齢者の方々とリモートを活用し課題を発見する研究を進めた。研究成果は以下のとおりである。

I 研究活動

1 サービスを利用するための情報機器（スマホ、タブレット等）の高齢者対応に関する研究

パンデミックの影響によって急速に進んだシニア層のデジタルデバイドの解消に関する研究を中心に行った。高齢者の社会活動のデジタルトランスフォーメーション（DX）の受容に関する研究を開始した。具体的には、シニアコミュニティにおける社会活動を支える Web システムを構築し、それらのシステム改善をシニアメンバーの方々と進め、デジタルデバイド、システムの高齢者対応を検討する研究である。研究成果については令和3年度以降報告する。研究の途中経過は中日新聞等で報道された。

2 高齢社会に関わる社会課題解決（コミュニケーション、健康、安全・安心問題等）のソリューションの高齢者対応に関する研究

一つ目の研究として、高齢者の多い中山間地域における地域の防災と個人の防災意識に関する調査を行った。研究成果については令和3年度以降に報告する。

二つ目の研究として特殊詐欺の被害のメカニズムに関する研究として、チョーキング（緊張）に関する以下の心理実験に関する研究報告を行った。

(1) 須藤智・鷹阪龍太・安久絵里子・原田悦子（2020）課題リズムの揺れに伴うチョーキングと認知制御の二重過程（1）-AX-CPT70による検討-。日本心理学会第84回大会。（東洋大学，2020年9月）（ポスター発表）

(2) 原田悦子・須藤智・鷹阪龍太・安久絵里子・原田悦子（2020）課題リズムの揺れに伴うチョーキングと認知制御の二重過程（2）：高齢者の場合。日本心理学会第84回大会。（東洋大学，2020年9月）（ポスター発表）

3 スタイクホルダーが協働して社会課題解決をおこなうコミュニティ（リビング・ラボ）に関する研究

当該報告期間では、コロナ禍のリビング・ラボの活動として、いくつかのイベントを実施し、コミュニティ維持とともに新しいコミュニティのあり方について検討を開始した。

・第1回オンライン講演会「ビデオ通話の仕組み—オンラインで繋がることを考える」令和2年10月9日（講演者：須藤智 静岡大学）

・第2回オンライン講演会「コロナ渦におけるシニアの社会・地域参加の意味を考える」令和2年11月13日（講演者：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 鈴木宏幸先生）

- ・第3回オンライン講演会「介護の「良いこと」を考える：介護自慢大会とは？」 令和3年2月5日（講演者：浦和大学社会学部総合福祉学科特任講師 栗延孟先生）